

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西淀川区
学校名	野里小学校
学校長名	芦高 浩一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・野里小学校では、第6学年 57名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和6年度の全国学力・学習状況調査では、国語科の平均正答率は全国平均が67.7%に対して本校は70%と、2.3%全国平均より上回っている。算数科では全国の平均正答率は64.4%に対して本校平均正答率は66%と、1.6%上回っており、どちらの教科も全国平均より学習を定着できていると言える。

また、平均無回答率も本校の国語科では1.2%(全国平均4.7%)と低く、算数科でも1%(全国平均3.1%)であり、粘り強く最後まで回答に取り組んでいる様子がうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 特に、「書くこと」の問題では、読み取ったことから目的や意図に応じて事実と感想、意見を書く問題に対して粘り強く取り組み、全国平均正答率が56.6%のところを本校は67.3%と非常に高い回答率であった。また、物語を読んで心に残ったところを理由やまとめを書く問題に対しても全国平均の72.6%に対して79.6%と上回っており、大阪市教育施策の基本的な方向の一つである「誰一人取り残さない学力の向上」として、主体的に子どもたちが学習に対して臨む姿が現れつつある。

[算数] 大阪市の教育施策の基本的な方向の一つである「教育DX」を鑑みて日頃よりICT機器の活用や、データの効率的な情報収集・分析を行ったうえで発表する学習活動の機会が増えてきている。今回の学力調査の問題5(3)のデータの読み取りでは、本校は53.1%の正答率であり、全国平均よりも9.1%高かった。

質問調査より

本校は「自分の思いや考えを話し合い、主体的につながり合う子どもを育成する学級活動をめざして」を研究主題として教育活動を進めている。質問調査「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか」の項目では、全国平均よりも肯定的な回答が7.7ポイント上回っている。

また、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取組んでいますか」の項目では、全国平均と比べて3.2ポイント上回っている。子どもたちの学習に対する理解と自信につながっている様子がうかがえる。

今後の取組(アクションプラン)

国語科では、話し合いに重点を置いた教育活動を進めてきた結果、文章に表す問題で全国と比較して正答率が高くなっている。理由や根拠から自分の考えを伝える力がついてきており、継続して話し合い活動を指導していく。

算数科では、全国平均に比べて記述式の問題の正答率が高まっている。一方で知識を問われる問題は全国平均と同等の正答率だったので、基礎・基本の定着を図る指導を進めていく必要がある。

今後も子どもたちの話し合いを大切にしつつ、主体的に、対話的に学習を進めることで学びを深化させる。そのためにICTを活用したり、家庭や地域と連携した体験的な学習を取り入れたりすることで子どもたちの学習意欲の向上につなげていく。